

サッカーで人間力を育成 信頼のGK専門アカデミー



サッカーで人間力を育成 信頼のGK専門アカデミー

株式会社Bande Japan

代表取締役社長 野口桂佑

プロフィール 静岡県掛川市出身。子どもの頃からサッカーをはじめ、ゴールキーパーとして活躍。高校卒業後はサッカー専門学校でC級ライセンスを取得し、その後は埼玉県の社会人リーグのチームに所属し関東リーグでプレー。サッカースクールでアルバイトをしながら選手生活を送った。その中で、指導者としての独立を決意し、キーパー専門のスクールを開講する。2015年に事業を法人化。(株)Bande Japanを設立した。

埼玉県で初めてのゴールキーパー専門のサッカースクール。それがふじみ野市のBande GK Academy (バンデゴールキーパーアカデミー)だ。運営する株式会社Bande Japan (バンデジャパン)の野口桂佑代表取締役は、サッカー専門学校で指導者資格のC級ライセンスを取得。社会人チームでゴールキーパーとして活躍後、このアカデミーを立ち上げた。子どもたちの人間力育成を重視する野口社長の指導には、サッカー元日本代表の城彰二氏も大きな期待を寄せていた。

将来を見据え社会貢献できる人間を育成



城 日本にはキーパーになりたいと希望する子どもの数が、海外より少ないと思います。2018年11月現在、生徒さんは何人ぐらいいるんですか。

野口 現在はありがたいことに、100名を越えています。対象は小学生・中学生の選手たちです。選手たちは皆、それぞれの所属チームとは別に当アカデミーにトレーニングをしに来ています。単純に考えると、100チームのGKが当アカデミーに来ていることになります！

城 キーパー専門のアカデミーにそれほどの需要があるとは、驚きです！

野口 実は私自身も驚いているんですよ。本格的なキーパーの練習をしたいのに、どこで習えばいいかわからないという子が思った以上にたくさんいました。本気の子ばかりなので、途中で辞めてしまう子がとても少ないのも特長かもしれません。

城 クラブチームに所属していても、キーパー専属のコーチがいて、みっちりトレーニングできる環境って少ないですからね。そこに需要があったということか。野口社長の指導方針をお聞かせください。

野口 「指導者は子どもたちの人生に触れている」ということですね。コーチにとっては毎日ある指導の1回でも、選手にとっては、それが一生を左右する1日になるかもしれない。だからこそ私は人の人生に携わっているという責任と誇りを感じながら指導しています。教えた全員がプロになれるわけではありませんし、たとえプロになれたとしても引退後の人生のほうが長いですよ。ですから、サッカーを通じて視野を広げ、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

城 人間力を育てるのは大事ですよ。キーパーはチーム全体の状況を把握して、みんなの助けになるプレーをしなくてはならないですから。

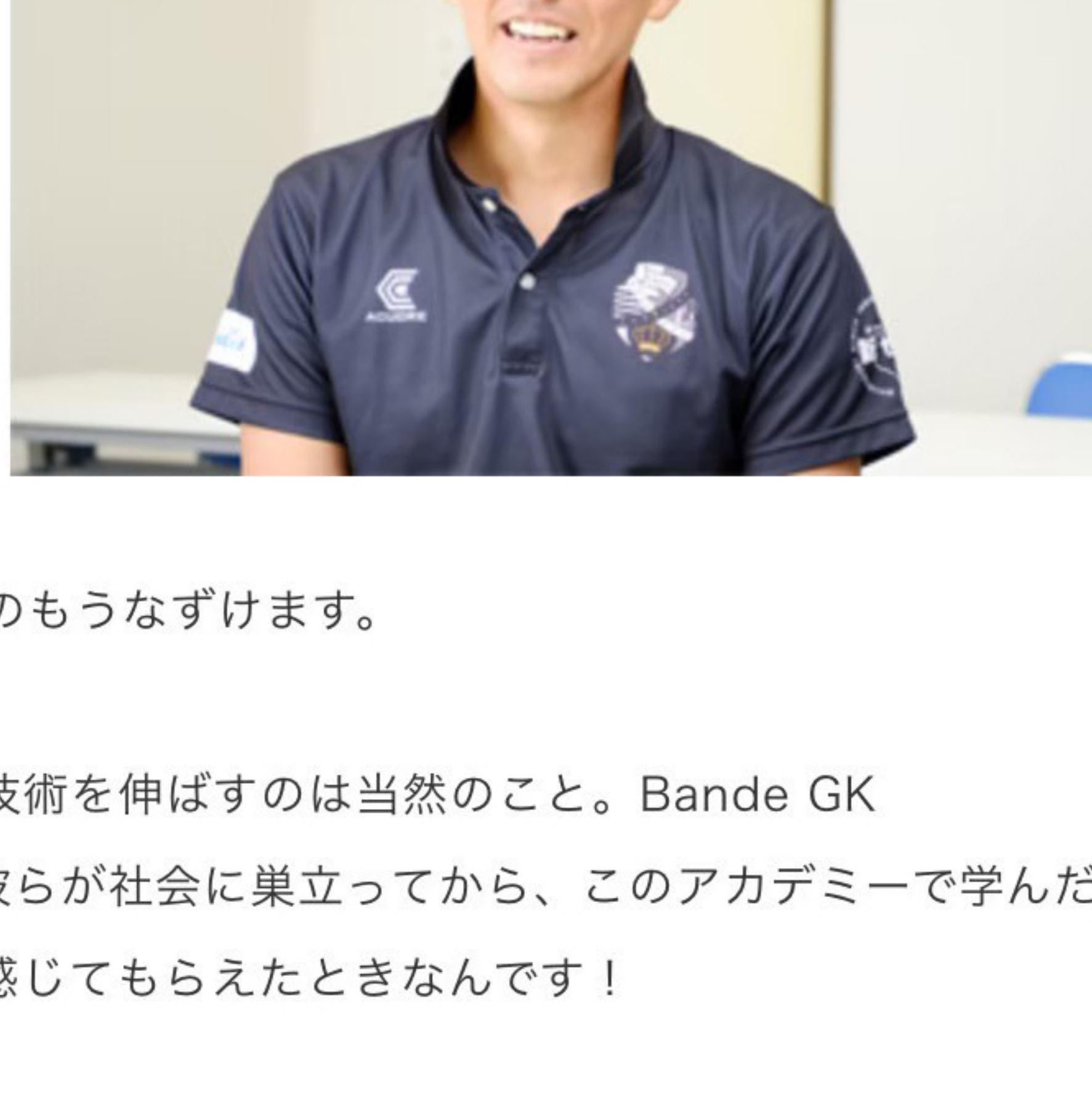
野口 はい。キーパーは仲間の動きを見て、後ろから指示を出すポジションです。「お前なんか言われたくない」と言われるキーパーと、「お前のために頑張る」と思われるキーパーのどちらになりたいか。そこを考えていけば、おのずと行動も変わりますよね。

城 試合でミスをして前向きな言葉をかけてくれると、チームの一体感が崩れずにすみますよね。

野口 ええ。そういうことを理解して練習に取り組めば、普段の生活でも意識が変わってくるんです。ですから私は、「ただサッカーを教えるだけではなく、選手たちの今後の人生を見据えた指導を大切にしています」とご家族にもご説明させていただいています。

城 そこがこのアカデミーの人気の秘密なんじゃないですか。ただのサッカースクール以上の価値を求めている子どもやご家族が、こちらの指導に惹きつけられるのもうなずけます。

野口 ありがとうございます。指導者が子どもたちの技術を伸ばすのは当然のこと。Bande GK Academyが掲げる本当の意味での指導の成果とは、彼らが社会に巣立ってから、このアカデミーで学んだマインドのすべてが、社会で役立つことだったのだと感じてもらえたときなんです！



GK Academy専用のグラウンドを持つ！



城 日本のサッカーが今以上に強くなるには、キーパーというポジションに対する理解が増す必要があると思います。そのためにも、自分の子どもがプレーしているポジションについて、ご家族に理解していただくことも大切ですよ？

野口 おっしゃるとおりですね。そこで当アカデミーでは月に一度、ご家族にも参加していただき、さまざまなテーマで座学を開いているんですよ。そうすれば家族共通の話題も増えます。こうした活動をするのは、ご家族が、選手の理解者として唯一無二的存在になってもらいたいからなんです！何よりも、大人が子どものために真剣に取り組んでいる姿を見せることはとても重要なんです。そのため、この座学はとても人気があって積極的に参加して下さる方々ばかりなんですよ。

城 家族の触れ合いにも一役買える、とてもいい取り組みだと思いますよ。では、プレーに必要な心構えとして、どんなことを教えているのでしょうか。

野口 キーパーはグラウンドに出たら監督と同じような役割が求められる立場。ですから状況を冷静に、俯瞰できるようになることを重視しています。そこで、技術だけでなく試合中の心の持ちようや練習の取り組み方などに焦点を当てた指導も行っています。的確な指導が必要になりますから、我々アカデミースタッフも毎回指導にズレが出ないよう、ミーティングで、意思統一するよう徹底しています。

埼玉県初のゴールキーパー専門アカデミー

城 サッカーのゴールキーパー専門アカデミーBande GK Academyを運営するBande Japanさん。どうしてキーパー専門のアカデミーを設立するに至ったのか、野口社長のご経歴が気になります。ぜひ、教えてください。

野口 私は静岡県掛川市出身で、サッカー王国と言われる地域柄、子どもの頃からサッカーをしていました。小学4年生のときからゴールキーパーを始め、高校卒業後は日本スポーツ科学専門学校のサッカー専攻科へ進学し、在学中に指導者資格のC級ライセンスを取得しました。その後は関東リーグの社会人チームに所属し、サッカースクールでコーチのアルバイトをしながら選手として活動していました。そこで経験を積んでいるうちに、独立を考えるようになったんです。それで、自分の経験を使って何ができるだろうと考えた結果、「キーパー専門のスクールを立ち上げよう」と決めました。

城 ご自身のキーパー経験をいかそうとしたわけだ。立ち上げたのはいつ頃なんですか？

野口 およそ9年前の2010年にふじみ野市に県内初のキーパー専門スクールBande GK School (バンデゴールキーパースクール)をオープンしました。その後、2014年にBande GK Academyと名前を変え、法人化したのが2015年でしたね。

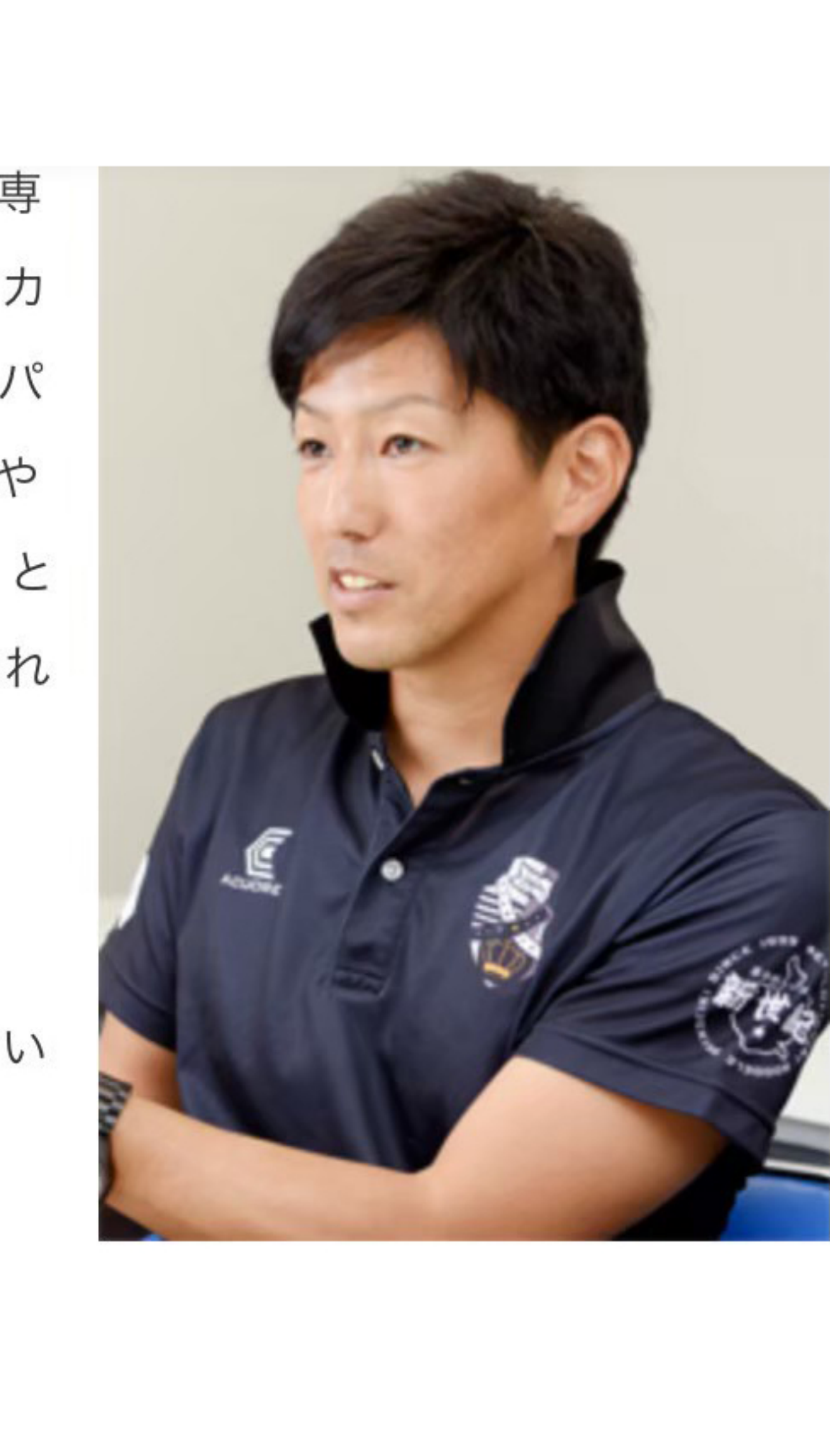
城 サッカースクールごとにゴールキーパークラスがあるのはよく聞きます。でも、専門のスクールがあるというのは、僕も知らなかったです。

野口 ありがとうございます。今後は、日本初となるゴールキーパー専用のグラウンドを、この埼玉の地で作るのが目標です。また、当アカデミーならではのメソッドを固めて独自のライセンスを発行し、キーパー専門アカデミーとしてのブランドを確立していきたいです。ご家族やチームの監督・コーチから「Bande GK Academyなら通うべきだ」と言ってもらえる存在になるため、自分自身も、信頼される人間になれるよう成長し、これからも頑張ります！

城 実に頼もしいです。人としての魅力を伸ばすその熱い思いを買い、未来の日本代表や優秀な指導者を育ててください。僕も期待していますよ！



インタビュー 城彰二 (サッカー元日本代表)



「仕事を楽しむ」とは・・・

朝起きてから翌日に備える就寝までも仕事に関する時間ですから、そこに感謝し楽しいと思えれば人生を楽しめていることになるのではないのでしょうか。私は本気で楽しむことの延長にあるサッカーで生活させていただいているので、子どもたちにもその姿を見せ、少しでも将来への道筋になれたら嬉しいです。

(野口桂佑)